

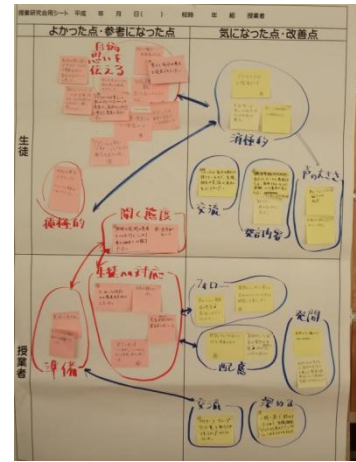
校内授業研究会における取組

1 従来の授業研究会の課題

一般的な授業研究会の流れは以下のようである。

- ア 研究主任のあいさつ
- イ 授業者の授業についての説明
- ウ 授業の感想や質問
- エ 講師による講評

このような授業研究会には問題点がある。一つめは、指名されないと意見をいうことが出来ない場合が多い。二つめは、自分の限定された見方だけで授業を見てしまう。三つめは、何が成果で何が課題かわかりづらく、課題に対する改善策が示されにくい。



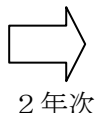
2 付箋を活用したワークショップ型授業研究会

そこで、本校の授業研究会は、松尾指導主事の助言により、ワークショップ型の授業研究会をすることにした。「ワークショップ」とは、協働作業を通じて何かを学び合ったり、作り出したりする学びと創造スタイルである。1年次は、人権教育主事が司会、準備等を行っていたが、2年次は、以下のような授業研究会準備シートや人権学習授業づくりチェックシート等を作成し、振り返りやスムーズな授業研究会運営を行えるようになった。

授業研究会 (1年次)

- 1 開始あいさつ
- 2 授業者あいさつ
- 3 グループ協議
- 4 代表者による発表
- 5 指導者助言

ワークショップ中に、授業者は、講師による助言を受ける



2年次



2年次

目標	年次	年次	月	日	校務	年次	年次	年次
協議	1	2	3	4	5	6	7	8
協議の仕方	1	2	3	4	5	6	7	8
協議の目的	1	2	3	4	5	6	7	8
協議の時間	1	2	3	4	5	6	7	8
協議の場所	1	2	3	4	5	6	7	8
協議の準備	1	2	3	4	5	6	7	8
協議の振り返り	1	2	3	4	5	6	7	8
協議のまとめ	1	2	3	4	5	6	7	8

時間	ワークショップの流れ	具体的内容、留意点
1分	開始挨拶、講師紹介	ワークショップの流れ、時間を確認する。 *ワークショップの形式が変わる場合は、付箋の貼り方や整理の仕方について説明する。
3分	授業者あいさつ	授業について、「授業を見る視点」と「授業全般に関すること」の二つに絞り、意見や助言をもらいたい点を説明する。
1分	課題の視点の提示	課題に沿った話し合いができるよう視点を示す。
20分	各班でグループ協議	成果、課題、改善点について、全員が話ができるようにする。 (手順) ①模造紙に付箋を読み上げながら貼る。 ②読み上げることに、共通した内容の付箋があれば、出す。 ③成果と課題の付箋を出し終わったら、改善点について話し合う。 *授業者は、一つの班に参加する。
10分	各班代表者による発表	各グループが発表した成果、課題、改善点について共通理解をする。
20分	指導者助言	外部講師を招聘している場合は、助言、指導等をしていただく。
5分	各自の振り返り	この授業でポイントになること、感想、疑問等カードにまとめる。

チェック	担当者	準備物
～授業1週間前～		
	授業者	*指導案を講師に送付
～前日準備～		
		①付箋(ピンク8枚、黄色8枚)をワークショップ例のシートと共に配布
		②フェルトペンの本数(40本)確認(当日の廊下に置いておく)
		③模造紙(5枚)の準備(拡大印刷をしておく)
		④模造紙に書くマジックを事務室から確保しておく(5セット)
		⑤会場設営(講師が使用するホワイトボード、マジック等の準備)
		⑥当日の座席のくじ引き作り(経験年数が偏らないようなくじ作り)
		⑦ゼロテープ(模造紙を貼るためのもの)
		⑧職員玄関の案内黒板
	授業者	⑨最終の指導案を配布
～当日準備～		
		⑩研究授業の記録(デジタルカメラ)
		⑪授業研究会の記録(デジタルカメラ)
		⑫各テーブルに模造紙とマジックを配布、くじ引きを置く
	教頭先生	⑬講師や他校の先生への対応、案内
	米沢さん	⑭湯茶の準備
		⑮教室横の廊下にマジックを置く

3 ワークショップの手順

ア 付箋・マジックを教室前に置いておく



イ 付箋に書き込みながら、授業観察



エ 4つの視点に沿って各班グループ協議



ウ 授業者あいさつ



オ 各班代表者による発表



カ 指導者による助言



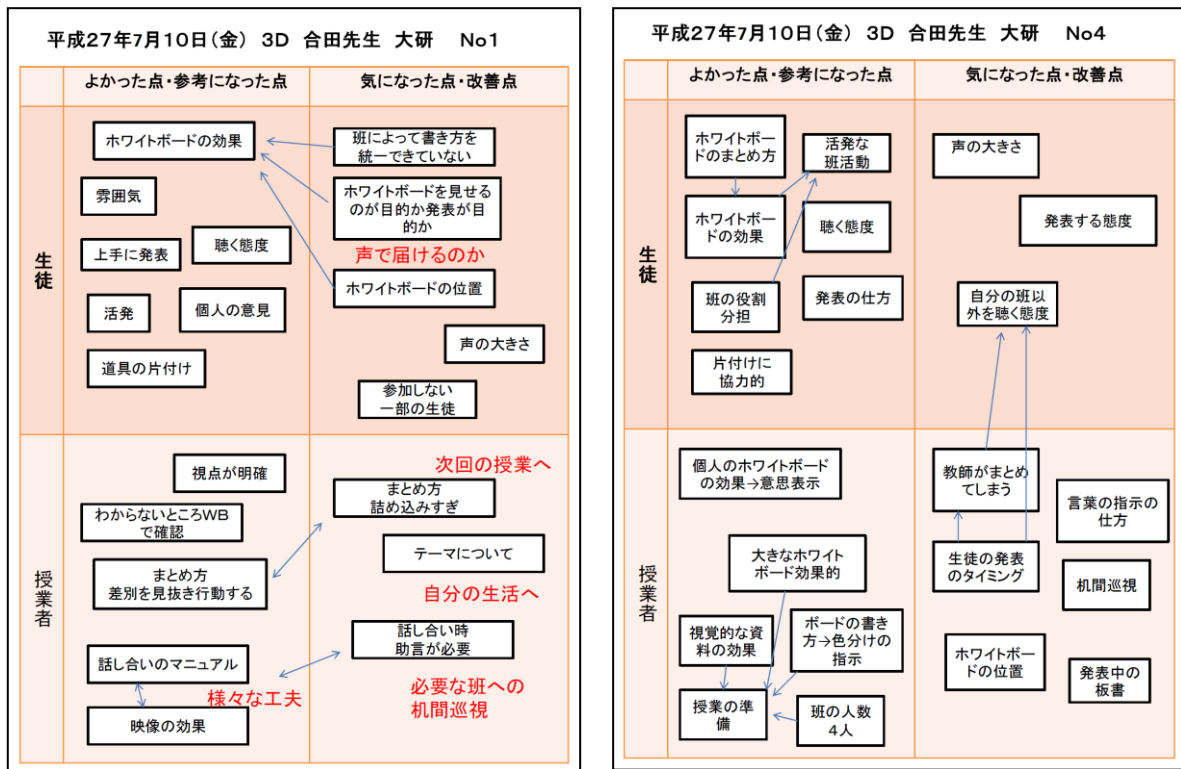
ク ワークショップ・振り返りのデータ化・配布

キ 個人の振り返りの用紙を記入



4 平成 27 年度授業研究会の取組

(1) 第 1 回大研 平成 27 年 7 月 10 日 (金) 3 年 D 組 合田先生



校内全体での授業研究会で、教員が4班に分かれてワークショップを行った。うち2班の成果物を上記に載せている。

ア 授業を見る視点

今回のワークショップは、生徒と教師の良さと課題を付箋一枚に一項目という条件で記述するというだけをお願いし、特に視点の提示は行わなかった。

イ 授業内容

学んだテーマは、「就職差別について考えよう」である。差別につながる14項目を学習した後、具体的なZ市の雇用実態調査について、差別的な内容が含まれているかどうかを判断する授業である。班ごとに話し合いを行い、判断基準はどんなことであるかを擦り合わせることによって、人権感覚を高めることをめざした。授業研究会については、前回第2学年の小研で同様のワークショップを行っていたため、スムーズに行うことができた。

ウ 授業の良さ

全ての班に共通して、ホワイトボードを使った授業の技術面についての指摘があった。

- ① ホワイトボードで意見を可視化することによって話し合いをスムーズにし、生徒個人の意見が反映された。
- ② 道具の取り扱い方や話し合いの進行の仕方などの準備も整っていたため、テンポ良く授業が進められた。

- ③ 人種差別が含まれるCMなどの、様々な資料を映像資料で提示し、生徒にあらゆる角度から考えさせることができた。

エ 授業の課題

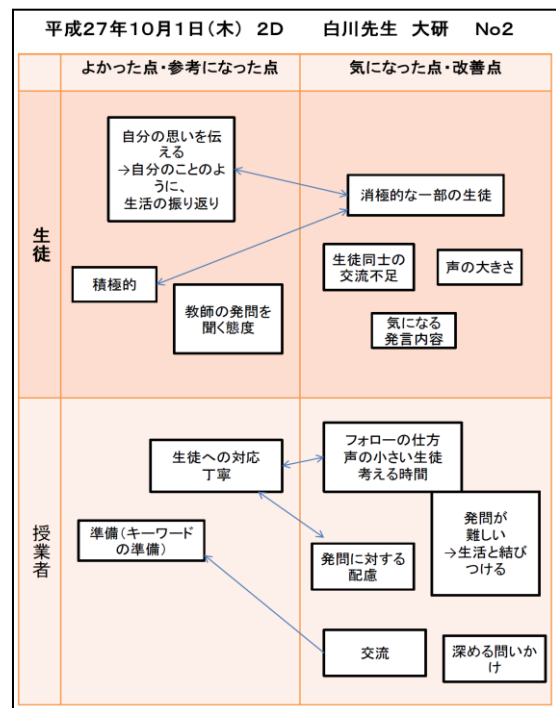
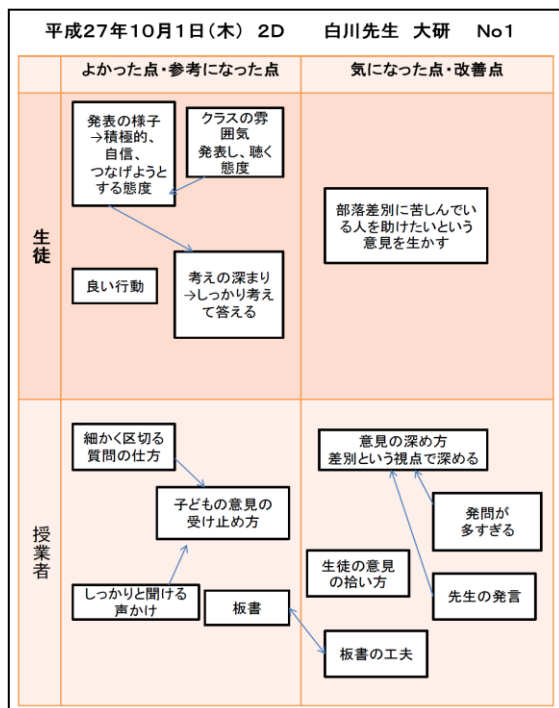
課題についてもホワイトボードについての内容が大半を占めている。

- ① ホワイトボードの使用の仕方に班で誤差があり、共通の使い方をするための工夫が必要である。
- ② ホワイトボードを見せることが目的になり、声を出して伝えようとする意志が弱くなってしまふ。
- ③ 授業のまとめ方について、生徒よりも教師の言葉でまとめてしまうことや机間巡視の仕方、授業内容の精選が必要である。

オ 第1回大研の授業改善のポイント

- 1 ホワイトボードの使い方について共有する。
- 2 ホワイトボードの発表形式を統一する。その際、声で伝えることを心がける。
- 3 授業をまとめ方については、教師の言葉でまとめるのではなく、生徒の言葉でまとめる。
- 4 班活動では、机間巡視を効果的に行う。
- 5 授業内容をつめこみすぎないようにする。

(2) 第2回大研 平成27年10月1日(木) 2年D組 白川先生



ア 授業を見る視点

この回は、前回の反省に「授業の技能面が主で、内容面が不足している」という反省から、ワークショップを始める際に、人権教育主事から、「内容面について意見を出してほしい」という提案をしてから望んだ。



イ 授業内容

2年生では、2学期から識字学級について学んでいる。「識字がんばろな」のビデオの視聴や教員で行った識字学級での話、わたしの願いの「識字学級のあゆみ」の学習を通して識字学級がなぜあるのかについて考えた。また、「あした元気になあれ」の資料での学習を通して識字学級のおばあちゃんの生き方に学び、本研究授業である「夕やけが美しい」の学習につないだ。

ウ 授業の良さ

- ① 生徒同士の意見をつなげることを意識し、積極的な態度でのぞむことができていた。
- ② 教師の生徒の意見を受け止めようとする態度に生徒との信頼関係ができていたように感じられた。
- ③ この授業までに小研や大研でたびたび課題になっていた板書についても事前にキーワードを準備し、有効活用できていた。

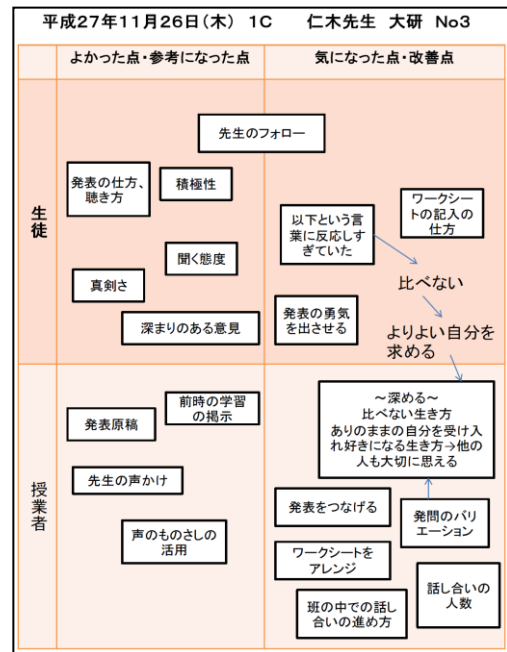
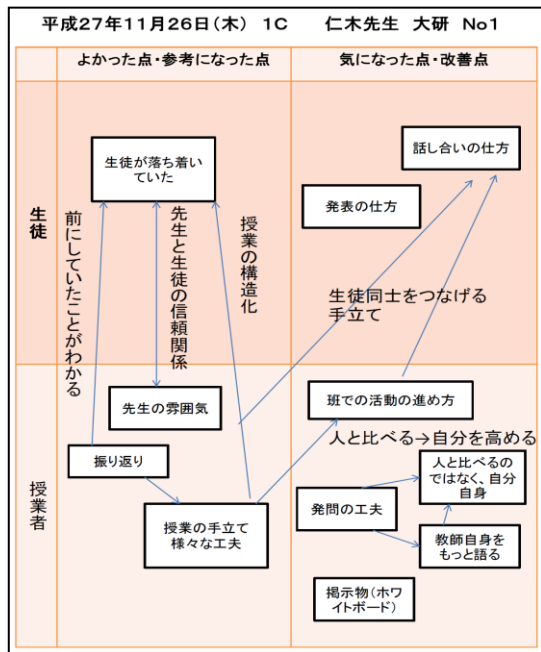
エ 授業の課題

- ① ある生徒から「部落差別に苦しんでいた人を助けたい」という核心的な意見が出たときに、他の生徒の意見と同様に扱った点に問題があった。この生徒の意見を生かして、生徒に切り返すことがこの授業のポイントであったという意見がどの班でも出された。
- ② 「北代さんの生き方を自分の生活に生かすためにどうすればよいか。」という発問は、生徒にとって答えにくい。人権の授業では、自分の生活に生かすという発問を最後にする 경우가多いが、生徒の身になって考えるとかなりレベルの高い発問になるので、「手紙を書いてみよう」など具体的な設定をして生徒が答えやすいような工夫をすることが大切である。
- ③ 発問に関して、生徒の意見が出ないと教師が次々に発問を変えてしまうが、生徒に考えさせ、揺さぶるような発問をすることが重要である。

オ 第2回大研の授業改善のポイント

- 1 生徒の意見を生かして切り返し発問をする。
- 2 生徒から出た様々な意見を同じように扱うのではなく、メリハリをつける。特に、差別に関する貴重な意見が出たとき、この意見について切り返す。
- 3 主人公の生き方を自分の生活に結びつける意見を求めるときは、直接的に聞くのではなく、主人公に手紙を書いてみるなどの工夫をするべきである。
- 4 中心発問と補助的な発問を生徒の意見を把握しながら事前に準備しておく。

(3) 第3回大研 平成27年11月26日(木) 1年C組 仁木先生



ア 授業を見る視点

この回の授業研究会は、これまでの小研、大研で課題になったものをまとめて4つに絞った。その4つの視点を事前に提示し、踏まえた上で意見を出すよう提案をした。

4つの視点

- ① 生徒の心が動く中心発問を考えているか。
- ② 授業中に生徒が、聴いて、考えて、発表できているか。
- ③ 生徒同士の発表をつないでいるか。(教師対生徒から生徒対生徒へ)
- ④ 理解度の差を埋める授業形態や手立てを考えているか。

イ 授業内容

1年生では、「自分を見つめて」というテーマで、授業を行った。「心やさしい子どもたちへ」では、いじめや差別を自分の問題としてとらえ、共に支え合う仲間になろうとする意欲や態度を育て、「人の値うち」では、生活の中にある様々な偏見について学習し、本時は、「自分以下を求める心」を学習し、自分の心にある自分以下を求める心に気付き差別をしない態度を養う授業に取り組んだ。

ウ 授業の良さ

- ① 生徒は落ち着いて授業に参加できており、聞く態度も非常に良かった。
- ② ホワイトボードで前時を振り返らせたり、班ごとの話し合いに活用したりするなど、様々な手立てが工夫されていた。
- ③ 発表の際には、発表のマニュアルがあったため、スムーズに行うことができた。また、声のものさしを活用し、聞こえる声で発表できていた。

エ 授業の課題

- ① 生徒の中から、「自分より下の生徒と比べるのではなく、上の生徒と比べる」という意見が連鎖的に出てきた。その際、「人と比べない生き方」を教師は推奨すべきであったのに、生徒の意見の大半がこの意見にまとまったため、否定がしにくかった。次の授業の中では、人と比べるのではなく自分自身を高める生き方について意見を出すべきであるという意見が出た。
- ② 教師が自分を語る場面があったが、遠慮して非常に短くなった。生徒にとって興味深い内容であったので、教師自身の経験を語ることも授業の中で必要であるという意見が出された。
- ③ 班の適切な人数や、話し合い時のマニュアルの必要性、意見の深め方などのについても意見が出された。

オ 第3回大研授業改善のポイント

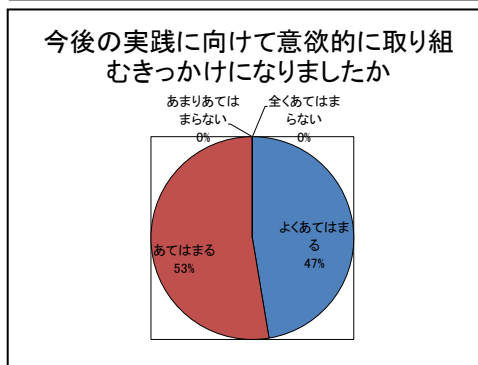
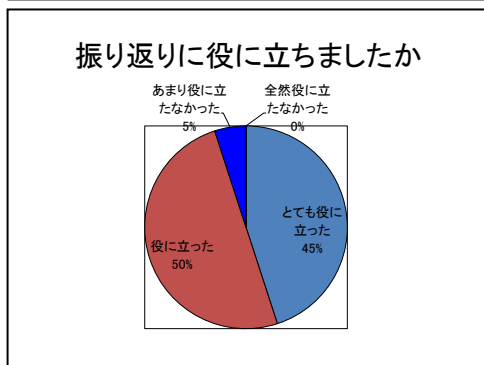
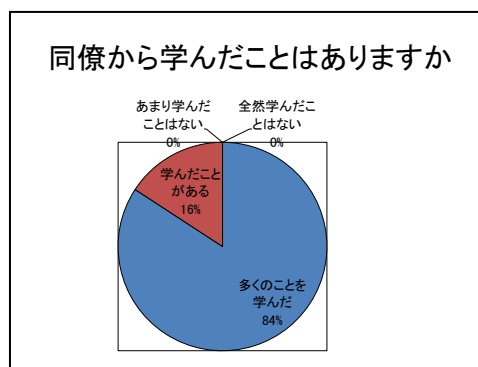
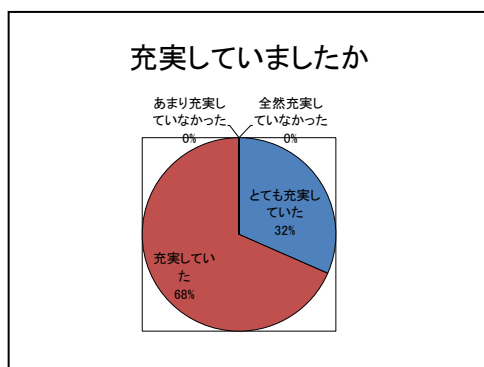
- 1 人と比べる生き方から、自分自身を高める生き方になるように意見を出させる。
- 2 時には、教師が自分を語る場面があってもいい。
- 3 班の話し合い、発表マニュアルがあると生徒が意見を出しやすい。
- 4 班の話し合いの人数は4人

今回の授業研究会は、結果的に中心発問に関する意見が多かった。4つの視点の中の最重要項目であることが全体に自覚された。中心発問や繰り返し発問について、教材研究の時点で授業者や参観者が把握しておく、授業を見るポイントが明確になり、ねらいが生徒に伝わりやすい。そのために、中心発問を位置づけた指導案の開発の必要性を感じた。



5 平成27年度授業研究会の成果と課題

1年間、ワークショップに取り組んできてアンケートを行った。以下がその結果である。



(1) 成果

- すべての参加者が意見を出することができる。
- 短時間でおこなうことができる。
- 授業を限られた視点から見るのではなく、様々な視点から見るができる。
- 意見を出すところから集約するので、職員のメタ認知する力が高まる。
- 教員同士の親和性が高まる。

参加教員の意見から

- 今まででは人権学習の時間が同じで、他の先生方の授業を見られる機会はなかったが、小研や大研でいろいろな先生方の授業が見られて本当に良かったと思います。これから、自分ももっと勉強する必要がある、授業のやり方も考えないといけないと反省しました。
- 研究授業をしてみて、計画段階では想定できていない、やってみてわかることがたくさんありました。皆さんに見ていただいて、もっと勉強をしなければと思います。
- 中心発問、授業の組み立て、生徒の意見の取り上げ方等、具体的な内容についての研修の機会を持ち（OJTになるかもしれないが）教師の授業力の向上を目指すことで、生徒や学校のよさが向上するように私自身が研修しています。
- 人権感覚は目に見えるものでないので難しいですが、まずは教員同士が同じ感覚をもっていけるように、研修やすりあわせができるような時間も必要だと思いました。きっと、それが生徒にもよりスムーズに入っていく方法の一つかと思います。

(2) 課題

- 授業者もワークショップに入ったほうがよい。
- 内容面についての意見が深まりにくい。
- ワークショップをしたあと達成感があるが、頭の中に残っていかない。
- 内容面について深めるには、班ごとに話し合いをもっと深めるべきではないか。
- ワークショップの仕方が班によってまちまちで、統一されていない。

参加教員の意見から

- ワークショップだけでは授業者本人はものたりないところがあるように思う。(技術面に関しての善し悪しは分かるが、内容面が乏しい) 生徒のこの意見がよかったとか、この発言をひろえたらよかったとか、こう広げたらどうかとか、そういう内容面における教材観を話し合えるようにすると、授業者もその他の者もより研究を深めることになるのではないだろうか。
- みんなの意見を聞けるのは良かったが、付箋を書く方法ではどうしても細かい部分に目がいつてしまい、授業をされている先生の授業観や教材観まで目がいかないところがあった。

これらの課題から、2年生の小研で、以下の3点で改善を試みた。以下が改善シートである。

- ①授業の視点と改善点を取り入れたシートによる授業研究会を行う。
- ②授業研究会の最後に個人の振り返りを取り入れる。
- ③授業者もワークショップに入る。

上記①②については継続できたが、③については、講師の助言を受ける時間と重なり実際に継続することができなかった。

(3) 改善シートで行った授業研究会

4つの視点を横軸、良さと課題と改善点を縦軸にシートを作成し、ワークショップを行った。時間に制限があるため、この回以降、すべての項目についての改善点が出せない場合もあった。

授業研究会用シート 平成28年3月4日(金)6校時 2年A組 授業者 松本先生、田中先生 小研					授業者	参加者		
	①中心発問	②自分で考え、自分の言葉で発表する	③友達を発表を聴いて、意見をつなぐ	④授業形態、手立て	⑤その他			
良さ	<p>今の自分を見つめ、振り返った時に、見えてくる自分の課題は何だと思えますか。また、これからの自分はどのように変わって生活していきたいと思えますか。</p> <p>↓</p> <p>この発問が良かった</p>	<p>真言文にこめられている思いを考へて、現代語訳を考へてほしい。各班とも良い意見が</p>	<p>自分の意見を他の人たちに伝えることができた。</p> <p>先生が生きて生き生きと仲間意識を持って活動できていた。</p>	<p>中村くんの発言を受けて、生徒の本当の思いが伝わり、空気が変わった瞬間があった。</p> <p>生徒の意見に、生徒の意見が繋がりました。</p> <p>吉川くんが中村くんを助ます言葉</p> <p>友達の良い意見を聴く態度が良かった。発表者を見る、待つ、授業後に伝える。</p> <p>つなぐっていいこととする気持ちを感じることができた。</p>	<p>ホワイトボードを使った班活動をするにより、生徒の意見が深まった。</p> <p>先生の語りが生徒の心を動かしたように思う。</p> <p>生徒がワークシートやホワイトボードによく書いていた。</p> <p>教材研究、ワークシート、掲示物等の準備がよくできていた。</p>	<p>F組の生徒に対する温かい目、態度</p> <p>受け止める雰囲気良かった。</p> <p>学習してよかったという思いを共有することができた。</p> <p>クラスの良さを再確認している生徒の姿があった。</p>		
課題	<p>それぞれの時間の中心発問は何か？(はっきりしてないかった)</p> <p>松田くんの「本気で変えなければ変わらない」という意見を中心にしてつっこむべき。意見を深めようこと。</p>	<p>個人で書けない考えられない子が多い。</p> <p>班で発表する代表の決め方</p>	<p>せつかくボードで発表したもので、それを全体につなげていけばよい。</p> <p>発表、作業(書く)、発表の繰り返しであり、単純な感じが残ったのが残念</p>	<p>教師の助言がなくても意見が言えるようにさせたい。</p> <p>生徒の意見を聞いて自分がどう応えるのか、つなげ方</p> <p>時間を気にしすぎてしまい、生徒の意見を広げられなかった。</p>	<p>班員全員が前に出て、一人が発表する意味は？</p> <p>時間設定</p> <p>班ごとの発表の後、感想や印象に残った点を話し合う時間を取る生徒同士の話し合いができたかもしれない。</p> <p>ワークシート、ホワイトボードの両方を使っていたが、時間がかかる。ワークシートで後に残す意味はあるのでしょうか？</p>		<p>思いが伝わっていると実感できた。</p>	
改善策	<p>・現代語訳が直訳になっているところを挙げて「どんな思いが込められているか」を考えさせる。</p> <p>↓</p> <p>ここから授業を展開させてみてはどうか。</p> <p>・「最後の二文にどんな思いが込められているのか。」</p> <p>↓</p> <p>れが中心発問</p>	<p>・書いたものを言うのが発表と思込んでいる生徒が多い。</p> <p>↓</p> <p>書いていないものでも発表してもいいということを見せていかなないと生徒はわからない。</p>	<p>松田くんの意見について他の生徒の意見を聴いたり、そこから自分の意見のことにつなげていけたら</p> <p>↓</p> <p>子どもの発言を取り上げて考えさせる時間が必要。</p>	<p>発表したことに対して「みんなはできるかな？」と問う。「出ているかな？」と問う→今の自分の状態を確認し、それでいいかなと問う。→「いけない」「自分も変わろう」という言葉が出る。→ここで生徒の経験</p>	<p>話し合いの仕方の例を示すマニュアル作り</p> <p>先生が生徒の意見をどのように取り上げるか例えば、ボードに赤線をひく</p>	<p>現代語訳は全員で読んでもよかったと思う。</p> <p>複数の意見をまとめていまとめ方を示す</p>		

【振り返りシート】

授業研究会の最後に以下のようなシートを配り、個人の学びに生かしてもらおうよう取り組んだ。書いたものは、無記名でプリントにし、配布を行った。

授業研究会 先生方の振り返りシート

授業や授業研究会を通して、気づいたり考えを深めたりされたことと思います。

この授業の中で最も重要なポイント(生徒の変容のきっかけ)と思われるところを一文で構いませんのでお書きください。また、質問や感想があればお書きください。

あとで、無記名でまとめ、配布します。

先生のお名前 ()

6 平成 28 年度 授業研究会の取組

(1) 平成 28 年度 第 1 回大研 平成 28 年 5 月 27 日 (金) 3 年 B 組 松本先生

授業研究会用シート 平成28年5月27日(金)5校時 3年B組 授業者 松本先生 大研 黄子チーム					
	①中心発問	②自分で考え、自分の言葉で発表する	③友達の発表を聴いて、意見をつなぐ	④授業形態、手立て	⑤その他
良さ	<p>教師の生徒への発問がよかった。「自分のこととして」</p> <p>クラスの課題や先生の思い、学習目標などにつながる発問だった。</p>	<p>生徒はよく考え、自分の言葉で発表できていた</p> <p>最初に前時の内容を質問するよう発問できていた。(理解できていた)</p> <p>生徒の中には自分やクラスの課題を分かっている。言葉を選び備わっていないように発言できていた。</p>	<p>最後の質問でみんなの意見が繋がっていた</p> <p>班でそれぞれ意見を出し合うことができていた</p> <p>導入の部分や前時の学習内容の振り返りがよく(活発)に行われていた</p>	<p>前向きに取り組めていた</p> <ul style="list-style-type: none"> 発表 先生への声かけ <p>先生が話しているときに顔がしっかりと向いている</p>	<p>ロールプレイで先生のつっこんだ質問がよかった</p> <p>生徒の予定しない質問への受け答えが引き出せていた</p> <p>S「すばらかった。僕はつまつたけど…」</p> <p>T「他の子がすばらしいと感じたのよな」</p> <p>Sの発言をみんなに共感的に復唱していた。</p>
課題	<p>聞く姿勢はいいが、全て言ってしまう前に考えさせてほしい</p> <p>振り返りの中で「落差差別につながる」の答えに対して「それは何を勉強したから」S「水平社」と答えた。その後、他にどのような問いで14項目が出たことに対して学習したこと発露させたり、差別解消に向けて立ち上がった人たちのことを確認してほしい。→ 団結も出てきただろう</p>	<p>発表の声の大きさ</p> <p>発問→補助発問により意見をつなぐことになる</p>		<p>作業の過程を示す</p> <p>グループ活動をしている時に役割がはっきりしているグループがあった</p>	
改善策	<p>「学歴」理由を聞きかかった→中学校→部落差別→質問からいろいろな差別が隠れていることを押さえたかった。</p> <p>生徒が考える時間を十分作って、生徒の出た言葉や発言をつなげていく</p>	<p>Sが「無理」と答えたとき、T「どうする。諦める？」と問い直したが、最悪あり→「あきらめたらどういう気持ちになる」S「悲しい、悔しい嫌だ」など気持ちを揺り動かすような自分の気持ちに引き合わせるような問いかけがあればよかったと思う</p> <p>→Tのクラスの友達同士での課題に結びつけやすかったのではないかな</p> <p>補助発問があればよかった</p>		<p>ロールプレイの発問を班ごとに変えてもいいのでは。そうすれば、その後の振り返りはいろいろな意見がでたのでは？」</p>	

本年度最初の校内全体での研究会として、教員が4班に分かれてワークショップを行った。そのうち1班の成果物を上記に記載している。

授業者には、昨年度授業研究会で課題となった点をもとに作成したチェックシートで、授業前と授業後に振り返りができるようにした。そして、参観者には、授業研究会で得たことを個人で振り返るための振り返りシートも作成し、授業研究会直後に書くようにした。授業研究会終了後、上記のようなすべての班のワークショップの成果物をデータ化したものと、個人の振り返りシートをまとめたものを配布した。

ア 授業を見る視点

今年度の授業研究会の視点も昨年同様である。

イ 授業内容

1学期に、「就職差別」をテーマに授業を行った。「許せない就職差別」では、社用紙を読みあう中で、差別的な表現があることを見抜き、統一応募用紙へと変わった変遷を理解させた。また、就職差別に関する14項目についても学習を行った。本時は、就職時の面接をロールプレイすることを通して、就職差別に出会ったとき、どのような対応をするのかを考えさせる授業を行った。差別に対して決して屈せず、正しいことを主張できるよう、話し合いを行った。

ウ 授業の良さ

- ① 就職差別について考えることから、クラスの課題につながっていった。
- ② クラスの課題を話す時には言葉を選んで発言ができていた。
- ③ ロールプレイで、突っ込んだ質問に対し、生徒自身の心が揺さぶられ、しっかり考えた答えが引き出されていた。
- ④ 傾聴の姿勢がよく、自分なりに考えた意見を出そうとしていた。

エ 授業の課題

- ① 振り返りの場面で、部落差別につながる質問項目について述べた生徒の意見から、生徒全員に広げ、考えさせるべきであった。
- ② ロールプレイで、正しいことを言いかえすことが「無理。」と発言した生徒の意見をきっかけに深めるべきであった。
- ③ ロールプレイの質問が統一されていたので、班ごとの答え方が似ていた。

オ 第1回大研授業改善のポイント

- 1 生徒から出てきた意見の中で、差別につながる内容である意見がでてきたら、学級全体に投げ返すようにする。
- 2 ロールプレイは、班ごとに質問内容を変え、様々な角度から考えさせる。
- 3 「無理。」というような差別に対して屈してしまう発言に対して、生徒全体にもう一度考えさせ、正しいことを正しいと言えるよう指導していく。

(2) 平成 28 年度 第 2 回大研 平成 28 年 6 月 24 日 (金) 2 年 A 組 松下先生

授業研究会用シート 平成28年6月24日(金)5校時 2年A組 授業者 松下先生 大研 黄色チーム					
	①中心発問	②自分で考え、自分の言葉で発表する	③友達の発表を聴いて、意見をつなぐ	④授業形態、手立て	⑤その他
良さ	質問をTVに映しているのがわかりやすかった	<ul style="list-style-type: none"> 班活動は仲良くできていた 班活動はうまくできてよかった 生活のふりかえりができている 班での話し合いが活発に行われていた 意欲的な話し合い 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いがそれぞれ積極的にできていた(声かけもあつた) 帯ね真剣に取り組んでいた 発表者の方を向くよう先生が指示し生徒もできていた。 全員が姿勢良く授業を受けていた。 他者の意見を尊重する声かけ 	<ul style="list-style-type: none"> 映像があると見やすい(質問がわかる) 先生が生徒に優しく語りかけていた。 先生の声の大きさ、はきはきとしたしやべりがわかりやすかった。 グループ人数や発表のやり方がよく考えられていた(スムーズだった) 先生の声かけに反応し、答え、発言できる。 生徒が手をきれいに書いていた 	
課題	<ul style="list-style-type: none"> 深められていなかった。(カードを貼っただけになってしまった) 	<ul style="list-style-type: none"> 映像をおして何と振り返らせなかったですか。 意見のふかまりがなかった 沖繩へ行つての気づき「戦争を語り続ける」ところからひきだせないか。 内容と別のところに感議がある生徒がいた ビデオの幸せな雰囲気から平和を引き出せないか。 班の話し合いの工夫(司会など) 生徒たちの個人の意見が少なかった 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒から生徒へと意見のつながりがなかった 生徒の意見に先生の意見が多かった 途中から生徒がリラックスしてきたが、平和を守る意欲が高まっていたらどうか。 発表の準備が出来ると集中力が切れたグループがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> 拍手はなくてよいと思う。 生徒の発言に対して、まとめて話さずしてもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導案作り 主題「沖縄」に学ぶは主題としてはどうか「平和な社会を築く」でどうか。 主題→理由→ねらい→本時の目標→展開の流れに→個性がやや欠ける
改善策		<ul style="list-style-type: none"> ・先生が振り返るより、生徒に振り返らせてもよかつたのでは？ ・「どうしてそう思った(考えた)の？」 ・「よく似た意見の人？」など一声かけてもいいと思つた。 ・先生は本時の目標を達成する中でどのような発言が出てくると予想していましたか。「いじめや差別をなくす」という意見が出てきたのはなぜだと思つていますか。→そのことを問うてみてはどうですか。 ・「平和、幸せ」と感じているのか？ ・人との関係を良くする。差別やいじめをしないなど班の発表があつたが、そのために何が必要なのか深めていくことが大切。 			

ア 授業を見る視点

今回の授業研究会の視点も前回同様である。

イ 授業内容

2年生では、修学旅行に向けて「平和学習」を行ってきた。白菊特攻隊記念館訪問や「沖縄戦のこと」の学習を通して平和や戦争についての考えを深めてきた。修学旅行では、ひめゆりの塔、平和の礎を訪ね、平和記念館で沖縄戦体験者である人の話を聴いた。今回は、平和学習を通して考えたことと共に、自分たちにとっての平和とは何かを考えさせる授業を行った。

ウ 授業の良さ

- ① ICT 機器を導入することで、視覚で共有できた。
- ② 生徒の指名の方法が良く、積極的に自分の意見が言えていた。
- ③ 授業研究会で初めて4人班を導入し、発表の仕方がよく考えられ、少人数グループでの話し合いが活発にできた。
- ④ 新聞を活用し、時事を絡めた授業内容が良かった。

エ 授業の課題

- ① たくさんの発表の羅列になっていた。先生が意見をまとめすぎた。
- ② 「平和」について聞かれているのか、「幸せ」について聞かれているのかがわかりにくかったので、発問を明確にする。
- ③ 意見の表示の仕方について考える。例えば、短冊を一斉に貼ると一つ一つの意見の違いがわかりにくかったことや、新聞記事の表示が小さかったことなど。
- ④ 班での話し合いの工夫（司会、記録、発表など）をする。

オ 第2回大研授業改善のポイント

- 1 生徒の意見を深めるために、意見の後に理由を言わせる。そして、生徒が意見を出すことによってまとめる。例えば、「〇〇について学んだから、〇〇できる。」という文型を使うなど。
- 2 「平和」と「幸せ」を別に考える。
- 3 班の意見発表を一班ごとに行い、KJ法のようにしてまとめるのも一つの方法である。
- 4 班での話し合いのマニュアルを活用する。また、他教科でグループ活動を行う。

(3) 平成 28 年度 第 2 回大研 平成 28 年 7 月 12 日 (火) 1 年 A 組 吉野先生

授業研究会用シート 平成28年7月12日(火)6校時 1年A組 授業者 吉野先生 大研 緑チーム				
①中心発問	②自分で考え、自分の言葉で発表する	③友達の発表を聴いて、意見をつなぐ	④授業形態、手立て	⑤その他
<p>良さ</p> <p>中心発問が自分の生活に関わることなので考えやすかった。</p> <p>自分のこと、友人のことに對しての発表により、注意深く聞くことができた。</p>	<p>体験したこと、発表しあったことから、どんなことが嬉しいか具体的に考えられている。</p> <p>発表が得意でない生徒も発表できていた。</p> <p>生徒の手がよく挙がっていた。</p>	<p>みんなで考える良い雰囲気だった。</p> <p>話を聞いて温かく反応することができている。</p> <p>次々とよい点が出てくるにつれ、発表者への注目、拍手等がよくなってきた。よい点を言ってくれた生徒がとても嬉しそうに表情をしていた。</p>	<p>友人の意見を受けて発表ができていた。</p> <p>先生が生徒の新聞に書かれている内容や体験活動の様子、日頃の人間関係について、よく知っていることが伝わってくる。</p> <p>友人のがんばったことをいうと良い雰囲気になる。自分のことを言われると嬉しそうに表情になる。</p> <p>ペアでホワイトボードを使っていたが、3~4人のグループ活動の方がスムーズに進行できた。</p>	<p>人のことをよく見ている。</p> <p>新聞を丁寧に書いていた。</p> <p>友達のよかったところをよく観察し、気付けて次々と発表できていた。発表内容にうなづいて同意する様子が見られた。</p> <p>最後のまとめで前時までの振り返りをしていた。</p> <p>先生の温かい雰囲気づくりがクラスに伝わっている。</p> <p>発表者の方を向かず話している生徒がいる。</p> <p>ほめる側とほめられる側それぞれの気持ちも聞いていた。</p>
<p>課題</p> <p>先生がクラスの課題を出したとき、生徒が気付く瞬間があったので、そのことを表現させ、共感する発問があればよかった。</p> <p>「自分がされていやなことは人にしない」反対言葉にしようも少し説明が必要行動に移さうなど</p> <p>春叢園訪問から学んだこと自分がされて嬉しいことが重なっていることを生徒に気がつかせることができればよかった。</p>	<p>先生が今日されて嬉しかったことは目で見て話を聞いてくれたことの後、その理由について話ができればよかった。</p>			
<p>改善策</p> <p>・つながりを生徒たちから発言できるような発問をする。</p> <p>・「反対言葉」に対して、生徒からはすぐに意見が出てきたが、もう少しびったりくる発問ができればよかった。</p>	<p>・どうして嬉しいか「先生が大切にされていると感じられたから…」など</p> <p>↓</p> <p>春叢園訪問で〇〇さんのよかったところは、ひとりひとりを大切にしている行動だったと確認する</p> <p>↓</p> <p>大切にされるとうれしいみんなが大切にされるクラスにしよう。</p>			

ア 授業を見る視点

今回の授業研究会の視点も前回同様である。

イ 授業内容

1年生では、春叢園訪問に向けて学習を行ってきた。まず、「新ちゃんが泣いた」のビデオを視聴し日常生活を振り返らせた。そして、「自分以下を求める心」の学習では、自らの差別意識と向き合い、素晴らしい生き方とは何かを考えてきた。春叢園との交流に向けて、園長さんの話を聴いた上で、事前準備を行い、実際の交流学习に臨んだ。そして、事後学習として新聞づくりを行ったあと、クラスで訪問で感じたことや考えたことの見聞交換を行った。本時は、春叢園訪問を通して、自分たちの生活について考えさせる授業であった。

ウ 授業の良さ

- ① 中心発問が生徒にとって理解しやすく、答えやすかった。
- ② 良かったところを発表する際の生徒の表情が良く、生徒が発表をよく聞いていた。
- ③ 生徒が次々発表できるよう、生徒同士が促し合いをしていた。
- ④ 2人でのホワイトボードの使い方コの字型の席の配置が良かった。

エ 授業の課題

- ① クラスの課題について生徒の気付きを表現させる発問がほしい。

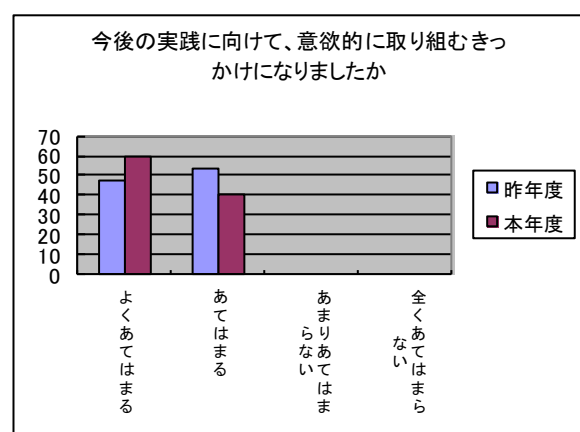
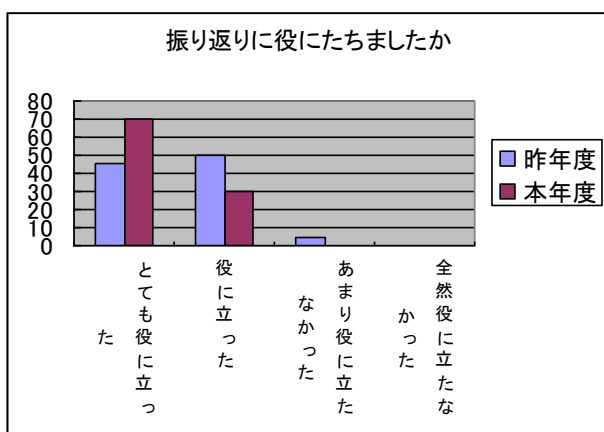
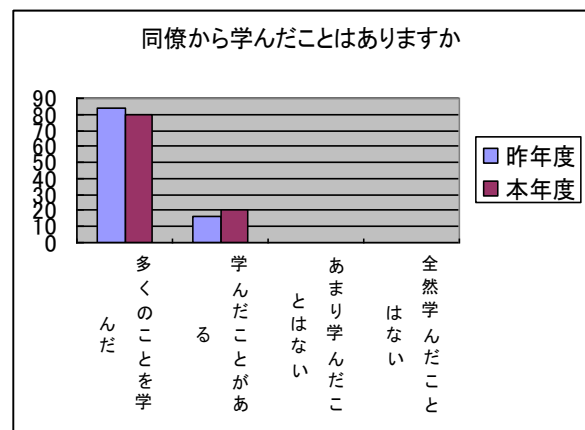
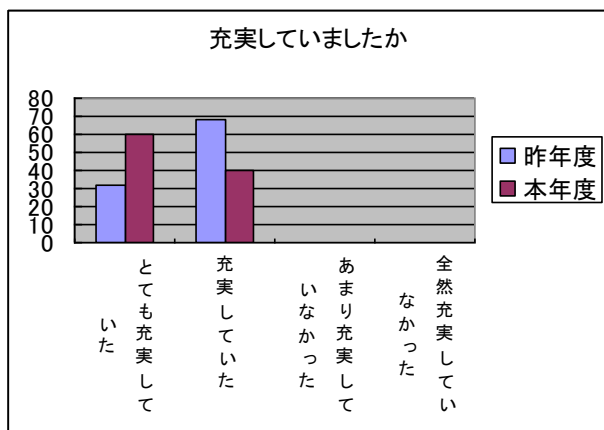
- ② 春叢園訪問から学んだことと自分がされて嬉しいこととの共通点を生徒から出させるとよかった。
- ③ 全員発表に時間がかかったので、時間配分や発表の仕方の工夫を考える。
- ④ ホワイトボードの貼り方、分類をして貼るなどの工夫。

オ 第3回大研授業改善のポイント

- 1 生徒の気付きを表現させる発問をする。
- 2 全員発表することに重きを置いてもいいが、時間配分を考えて共通するところは言わせる、全員プレゼンなどの工夫をする。
- 3 クラスのエピソードを先生からだけでなく、生徒からも言わせる。
- 4 ホワイトボードの貼り方を工夫する。

7 平成28年度授業研究会の成果と課題

昨年度と同じアンケートを行い、比較を行った。



(1) 成果

- ・ 4つの視点においてワークショップを行ったので、授業の技術面だけでなく、内容面についての考えが深まった。
- ・ 短時間で様々な角度から意見を出すことができた。

- ・授業中、付箋に書くことで、その場で考えたことが議論に挙げられる。
- ・学年集団の枠を超えて、授業について語り合うことができる。
- ・授業研究会で挙げられたことが、自分の授業の中にも共通しており、授業改善に生かそうとする意欲を喚起した。

参加教員の意見から

- ・班別にしたり、付箋を貼ったりと一人一人の意見がよく反映されていた。
- ・毎回の授業研究会をプリントにまとめてくださったので、とてもわかりやすかった。
- ・改善策まで話し合うようになったことで、自分の授業に取り入れることもでき、勉強になった。
- ・自分の課題を他の人の授業を見ることで、さらに意識できたように思う。
- ・改善策もたくさん考えることができたので、自分のこれからは活かしたい。

(2) 課題

- ・十分な時間を取ることができない回があり、改善策までいきつかない場合があった。
- ・中心発問について授業者の意図を述べる時間を設ける必要がある。
- ・4つの視点についてワークショップを行ったが、視点について深まっていったかどうかを見取る時間が必要である。
- ・授業をすべてみることができているので、十分に考えられた意見を出すのが難しい。

参加教員の意見から

- ・授業時の生徒管理について。交代で見回りに抜けるので、初めから終わりまで見ることができないのが残念だと思います。
- ・授業中、付箋に書くのではなく、指導案に書き込んだほうが内容面についてよく考えられる。
- ・授業形態については、毎回様々な工夫があり、参考になる点が多かったが、中心発問については、教材をしっかり読み込んでおかないと指摘が難しい。生徒が自分の意見を考えて言うところは、教師側の心構えで変わってくる。生徒同士の意見をつなぐというところについては、教師対生徒の姿勢から抜け出せていないように思う。